

I. 受託事業・教育事業報告

1. 松本大学×道の駅「中条」×国土交通省 連携企画

松本大学総合経営学部による道の駅「中条」を拠点とした地域活性化

—88(やまんば)プロジェクト2018—

総合経営学部総合経営学科 清水 聡子

(1)はじめに

松本大学と道の駅「中条(なかじょう)」及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始した。連携企画の実施にあたり、道の駅「中条」の運営を担う指定管理者であるアクティオ株式会社と本学は事業連携・推進に関する協定を締結し、2015年7月7日に記者会見を行った。松本大学総合経営学部では国土交通省の推進する「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参画し、地域貢献と学生教育を進めている。

1995(平成7)年に登録された道の駅「中条」は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する。道の駅「中条」のある旧中条村は2010(平成22)年1月に長野市、信州新町、中条村の1市1町1村で合併し、長野市中条となった。旧中条村は山姥伝説の里として知られている。

松本大学総合経営学部総合経営学科清水ゼミの学生は山姥が「子育ての神様」として住民から大変慕われていることに着目し、山姥伝説を中条地域の大切なお宝として捉え、「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条を応援します!として、「88(やまんば)プロジェクト」を立ち上げた。これは山姥(やまんば)の“や”と“ば”を数字の8で表現したら面白い!と学生の柔らかな発想から生み出された。長野市中条地域の活性化に向けて、①「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条のお宝探し、②長野市中条地域最大イベント「むしくらまつり」の連携・協力を実施している。

4年目となった2018年度も協定に基づき、道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的として活動を続けている。88(やまんば)プロジェクトファームでの西山大豆による6次産業化の推進、西山大豆を使った「笹クレープ」の企画・販売、学生が考案した道の駅「中条」のイメージキャラクター「ナカジョニー」によるAR(拡張現実)動画の制作、「スタンプラリー」の企画・運営、「ナカジョニー」を中心に「むしくら

まつり」へのイベント参加と、学生の溢れるアイデアが形になった。本稿では、2018年度の「88プロジェクト」の活動を報告する。

(2)2018年度キックオフ・ミーティング

2018年5月21日(月)、総合経営学科清水ゼミの学生が授業を企画し、道の駅「中条」の皆様と2018年度「88プロジェクト」のキックオフ・ミーティングを行った。道の駅「中条」の指定管理者であるアクティオ株式会社の植山貴司東日本営業部次長、道の駅「中条」下内光雄施設長、さらに国土交通省関東地方整備局長野国道事務所計画課谷部哲男専門官の3名にご出席いただいた。また総合経営学部教員6名(増尾均総合経営学部長、室谷心総合経営学科長、成耆政総合経営学科教授、矢崎久総合経営学科准教授、小林俊一総合経営学科教授、清水聡子総合経営学科教授)、総合経営学科学生23名(清水ゼミ3・4年生12名、成ゼミ3年生11名、)が参加し、2018年度「88プロジェクト」はスタートした。

増尾総合経営学部長によるキックオフ・ミーティング開会宣言、国土交通省の谷部専門官、アクティオ株式会社植山次長よりご挨拶を頂戴し、道の駅「中条」下内施設長より2018年度の中条地区イベント等、説明があった。

続いて総合経営学科清水ゼミ4年生の金子沙也加さん、多田春菜さん、松崎蓮さんより2017年度の「88プロジェクト」の成果報告と多田春菜さん、中村大地さんより他県の道の駅の紹介と提言があった。また下内施設長より参加者全員へ道の駅「中条」の人気商品である「西山大豆乳ドーナツ」「西山大豆のみそ仕立て」「西山しほり大豆」「山姥黒豆せんべい」を頂戴した。

2018年度の新たな企画を考案した総合経営学科清水ゼミ3年生の塚原京一さん、藤森龍平さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 塚原 京一
総合経営学科 清水ゼミ3年 藤森 龍平

2018年度のキックオフ・ミーティングで私たちは、食品開発、イベント企画として「〇×クイズ」「宝探しゲーム」、中条のイメージキャラクター制作、PR動画制作を提案しました。食品開発として地域の特産物である西山大豆を使った「豆乳プリン」「笹クレープ」「おからパウダー」「豆乳鍋」を提案しました。赤羽樹さんが「豆乳プリン」を試作し、下内施設長、植山次長、谷部専門官に召し上がっていただきました。直接おいしいという声を頂戴し、とてもうれしく思いました。

また、PR動画制作についても興味を持っていただきました。当初は、動画を撮影した後にホームページや店内モニターで流していただければと思っていましたが、植山次長からその場で早速、「AR(拡張現実)を使うこともやってみないか」という提案を受けました。予想外の提案で驚きましたが、新しいことに挑戦できるチャンスにわくわ



国土交通省関東地方整備局長野国道事務所計画課
谷部哲男専門官のご挨拶



清水ゼミ4年金子さん、多田さん、松崎さんより
2017年度の成果報告



清水ゼミ3年赤羽さんが試作した「豆乳プリン」の
提案と4年多田さんの提言



下内施設長、植山次長より道の駅「中条」の人気商品
（「西山大豆豆乳ドーナツ」「西山大豆のみそ仕立て」
「西山しほり大豆」「山姥黒豆せんべい」）を頂戴する

く感とともに緊張感が生まれました。

このキックオフ・ミーティングでは、私たちの企画に対して様々な意見や質問、感想を伺うことができました。私たちのアイデアと道の駅「中条」の皆様の力をもとに道の駅「中条」や「88プロジェクト」を盛り上げていきたいと思ひます。

(3)アウトキャンパス・スタディによる現地調査

2018年6月18日(月)、総合経営学科清水ゼミ3・4年生11名と清水聡子総合経営学科教授の計12名は、長野市道の駅「中条」でアウトキャンパス・スタディを行った。

道の駅「中条」の指定管理者であるアクティオ株式会社の植山貴司東日本営業部次長、道の駅「中条」下内光雄施設長、高橋さつき副施設長、営農責任者の藤本人寿副施設長、売店責任者の小林彩子リーダー、食品担当の坊農正樹さん、国土交通省関東地方整備局長野国道事務所計画課谷部哲男専門官、長野市商工観光部観光振興課西部産業振興事務所山本裕一所長と、松本大学×道の駅「中

条」×国交省の連携企画「88プロジェクト」の2018年度の活動について話し合った。

道の駅「中条」の名物「おぶっこ」「笹おやき」をご準備いただき、旬のフルーツのソフトクリーム、お土産に「西山大豆豆乳ドーナツ」を頂戴した。また88プロジェクトファームで西山大豆の種まきを行い、6次産業化について検討した。

総合経営学科清水ゼミ3年生の内田敦也さんに今回のアウトキャンパス・スタディについてまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 内田 敦也

5月21日に行われたキックオフ・ミーティングの内容を踏まえた今回のアウトキャンパス・スタディでは、清水ゼミ3年生の提案した各案について、下内施設長、植山次長より、実行するにあたってどのように進めていくのか、製品化するにあたってどのように販売するかなど、より具体的かつ現実的なお話をいただきました。

清水ゼミ3年生鎌田栞さんの提案した「笹クレープ」は試作品を用意していただき、「西山大豆豆乳ドーナツ」と同じ素材を使ったクレープ生地を生クリームとりんごコンポートとジャムを挟み、笹の葉を巻く体験をし、生地、笹の葉をどのように巻くかを考えました。この「笹クレープ」は11月3日に開催される「むしくらまつり」で販売することを検討しており、考案者の鎌田さんは、形状、価格、包装、キャッチコピーなどを考えていかなければいけない責任を感じ、不安もあるが、みんなで試行錯誤して成功させたいと述べました。

今回の目玉は藤森龍平さんの提案するAR(拡張現実)を使った催事で、清水ゼミ4年生と藤森さんを中心とする清水ゼミ3年生が、昨年行われたスタンプラリーにARを盛り込む案やレストランのメニューや売店の商品をARで立体的に表示する案を発表しました。発表者の藤森さんはこの商品紹介に強い手ごたえを感じていました。

植山次長からはスターティアラボ株式会社のCOCOAR2を利用した事例を紹介していただき、ARを使ってどのようなことができるのか、過去にどのようなことが行われたのか知ることができました。この話し合いを通してさらに具体性を高めたARの活用を発案することが私たちの課題です。

その後、88プロジェクトファームで西山大豆の種まきを行いました。4種類の西山大豆の種(黒豆、ナカセンナリ、あやみどり、鞍掛豆)をまき

ました。貴重な体験をさせていただいたとともに、西山大豆の成長、収穫がとても楽しみです。

今後の活動として、私たちはまずARを利用した催事について考えを詰めていかなければなりません。私たちの考えるARを使った企画が道の駅「中条」へお越しになる多くのお客様を楽しませることができるように努めていきたいです。



「笹クレープ」を考案した清水ゼミ3年鎌田栞さん



商品開発中の「笹クレープ」の試食および検討



AR(拡張現実)のイメージを膨らませる
清水ゼミ3年藤森龍平さん



88プロジェクトファームにて西山大豆の種まき



10月21日(日)に行われる
「スタンプラリー」の場所を視察

(4) 学生発案「スタンプラリー」を長野市道の駅「中条」で実施

2018年10月21日(日)、総合経営学科清水ゼミの学生10名と総合経営学科3年生2名、清水聡子総合経営学科教授、計13名は、多田春菜さんが2017年に発案した「スタンプラリー」を道の駅「中条」の皆様と一緒に実施した。国土交通省関東地方整備局長野国道事務所計画課谷部哲男専門官も応援に駆けつけてくださった。清水ゼミ3年生の藤森龍平さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 藤森 龍平

2017年度に引き続き、2018年度も清水ゼミ3年生が主体となり、道の駅「中条」で「スタンプラリー」を企画し、実施しました。昨年、先輩方が感じた反省点を活かしながらクイズを一新し、道の駅「中条」を知ってもらう問題をはじめ、山姥伝説にちなんだ問題を新たに追加出題しました。また「中条」のイメージキャラクター「ナカジョニー」を考案した内田敦也さんが生身で演じ、「スタンプラリー」に参戦するなど、新たな企画にも挑戦しました。「スタンプラリー」当日は天候にも恵まれ、参加ご家族に大変好評で、来場して下さったお

客様の中には「ナカジョニー」に会いにきてくれた方もいらっしゃいました。

「スタンプラリー」のあとは“自然の遊び”を行いました。今年度は前年度の「草笛」「草相撲」などに加え「箱の中身あてゲーム」「落ち葉アート」を新たに企画しました。「箱の中身あてゲーム」では特産品であるりんご、たわしやスポンジなどを入れ、正解者にプレゼントしました。「落ち葉アート」では子どもたちの自由な発想が作品に溢れました。当日は霜が降りていて少し滑りやすい地面でしたが怪我なく無事に終えることができました。

昼食は道の駅「中条」の皆様から振舞っていただきました。りんごを使ったおやき、道の駅「中条」名物料理の「おぶっこ」、焼き芋にシャインマスカット、デザートにソフトクリームをいただきました。昼食後、「スタンプラリー」および“自然の遊び”への反省会と11月3日に道の駅「中条」で開催される「むしくらまつり」で販売する「笹クレープ」「笹おやき」などについて検討しました。

「スタンプラリー」は4家族、12名の参加がありました。完走者に焼き芋と道の駅「中条」名物の「西山大豆豆乳ドーナツ」をプレゼントしました。去年も今年も参加していただいたご家族もおられました。一緒に参加した学生からは、“自然の遊び”で子どもと一緒に楽しめた「また、「ナカジョニー」からは「会いにきてくれた方と写真を撮ったり、子どもたちが僕を知ってくれていて嬉しかった」という感想がありました。

3年生は初めてスタンプラリーに参加し、計画通りにイベントを進行する難しさや、事前準備の重要さなど多くのことを勉強することができました。多くの準備をしていただいた道の駅「中条」の皆様、ありがとうございました。



2017年に「スタンプラリー」を発案した
多田春菜さんと「ナカジョニー」と参加ご家族



2018年「スタンプラリー」責任者の降旗あすかさんと自然の遊び担当の中村大地さん



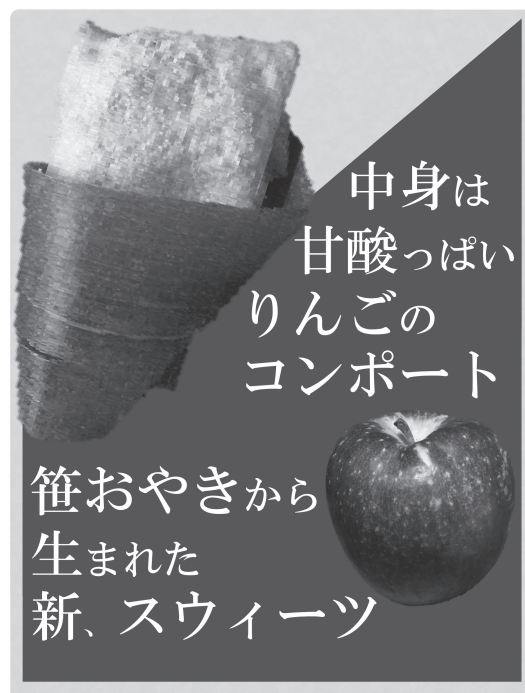
「落ち葉アート」に真剣に取り組む様子



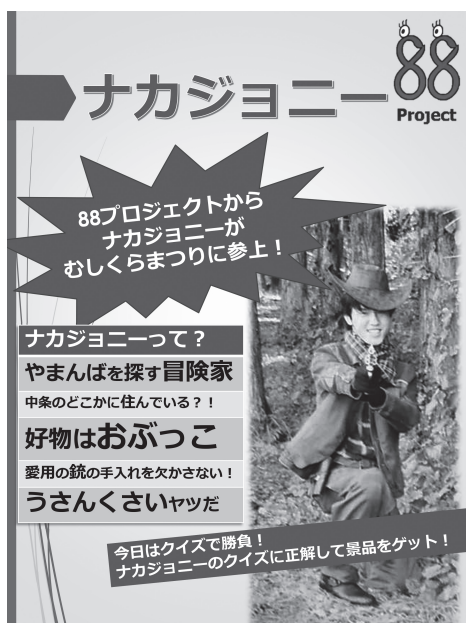
清水ゼミ3年内田敦也さん演じる「ナカジョニー」
(高見澤忠さん撮影)

信濃毎日新聞(2018.10.31)の1面、25面で、『「ナカジョニー」松本大生変身! 長野・中条 道の駅のキャラ考案 3日の「まつり」に登場。ご当地キャラ 生身で演じます』と掲載されました。

11月3日、道の駅「中条」で開催される「むしくらまつり」では「ナカジョニー」と愉快的仲間たちで「○×クイズ」、鎌田栞さんが考案した「笹クレープ」と「笹おやき」の販売、松本大学ブースで“自然の遊び”と大学紹介を行います。今回の学びを活かし道の駅「中条」の皆様と参加する清水ゼミ、成ゼミ、小林ゼミの学生で連携をとり、盛り上げていきたいです。



学生制作ポスター「笹クレープ」



学生制作ポスター「ナカジョニー」

(5)長野市中条地域最大イベント「むしくらまつり」の連携・協力

総合経営学科清水ゼミ・成ゼミ・小林ゼミの学生25名、成者政総合経営学科教授、小林俊一総合経営学科教授、清水聡子総合経営学科教授、計28名は道の駅「中条」で行われた「むしくらまつり」に参加した。「むしくらまつり」への参画は2015年から連続で4年目となる。

2018年、第12回むしくらまつりは雲ひとつない晴天で虫倉山を眺めることができ、約4,000名のお客様が道の駅「中条」へ来場された。国土交通省関東地方整備局長野国道事務所計画課谷部哲男専門官も応援に駆けつけてくださった。

2018年度は、清水ゼミ3年生内田敦也さんが考案したご当地キャラクター「ナカジョニー」による「〇×クイズ」、清水ゼミ3年生鎌田葉さんが考案した「笹クレープ」100個限定販売、参加型イベントとして「落ち葉アート」と「笹舟づくり」の企画・運営のほか、「笹おやき」700個、「にらせんべい」321枚を販売した。また6月18日、88プロジェクトファームに種をまいた西山大豆の収穫作業も行った。実際に活動を行った学生が原稿をまとめた。

「ナカジョニー」の考案・実演

総合経営学科 清水ゼミ3年 内田 敦也

5月21日のキックオフ・ミーティングで私が提案したキャラクター「ナカジョニー」に扮し参加しました。下内光雄道の駅「中条」施設長が「ナカ

ジョニー」の衣装や小道具を用意してくださいました。また『信濃毎日新聞』(2018年10月31日)の1面、25面にも取り上げられ、多くの方に「ナカジョニー」の存在を知っていただくことができました。

「むしくらまつり」では、キックオフ・ミーティングで塚原京一さんから提案された「〇×クイズ」を「ナカジョニー」が行う、学生同士のアイデアを混ぜ合わせた形で臨みました。事前にスケッチブックにクイズを用意し、小さな子どもから高齢の方まで老若男女問わず、「むしくらまつり」の参加者の方に景品を渡ししながら、楽しんでもらえるよう活動しました。

新聞に掲載していただいたこともあり、多くのお客様に新聞で見たよと声をかけていただけ、本来予定にはなかったステージでの「88プロジェクト」の紹介も行いました。「ナカジョニー」はじめての「むしくらまつり」において存在感を十分に示せたと感じます。私としても大変喜ばしく思っています。

次年度に向けて「ナカジョニー」を育てることが私の今後の課題になります。道の駅「中条」の皆様、先生方への感謝を忘れず、この恵まれた機会を全うしたいと思います。

「笹クレープ」の考案・販売

総合経営学科 清水ゼミ3年 鎌田 葉

私は自らが考案した「笹クレープ」の販売を主に行いました。限定100個で価格は100円。販売場所は室内のお土産コーナーのイートインスペースの隣付近の一角で販売しました。初めての試みであったのでどんな反響があるのか不安と責任を感じていました。

しかし実際に販売を始めると次々と「笹クレープ」を手にとって買ってくれる方々が多く、なかには買ってすぐに「笹クレープ」を食べて「おいしい!」と言ってリピーターとして沢山買っていかれる方もいました。お客様の層も老若男女問わず「笹クレープ」に興味を持ってくださり、お客様の生の声や笑顔をたくさん目の当たりにしました。私は自分が思っていた以上の盛況をいただき感謝しました。そしてあっという間に午前11時前には完売しました。完売した後も笹クレープを買いたいと来てくださる方々も多くいました。

イベントを振り返り、「笹クレープ」の製造を全て道の駅中条の皆様にお任せしてしまい、多大なるお手間をおかけしました。私が想像していた

さあさ よっとくらえ
やまんば伝説 むしくらの里

第12回 信州 むしくらまつり

ステージプログラム //

第12回 信州 むしくらまつり

特産品広場 //

信州 中条の
秋の味覚満載!!

ふるまい!

千人鍋 お結び隊
おむすび体験

平成30年 **11/3** 土祝 9:00~14:45

会場 道の駅 中条

88プロジェクト道の駅中条×松本大学
手作り笹クレープ販売&ナカジョニー参上!!
スマートホンを使ってこの「ナカジョニーの動画」が見れます
①ストアから専用アプリ「COCOAR2」を検索してインストールします。
②アプリを起動して、カメラを「この写真」にかざすとスキャンが始まり、動画を見ることが出来ます。

展示・販売・体験

アルプスおやき恋訪
(中条・小川・美麻のおやき大集合)
塩産物産展(海産物販売)
村の駅つくし(おでん他販売)
中条れんげの会(ハチミツ他販売)
サニクリーン甲信越(ミニゲーム)
長野西中条校(陶芸作品の展示・即売他)
芸術家滞在事業(作品展示)
アートロケーション「場」(展示・販売)
商工会(やさき他販売)
わんさか市(地元農産物)
進和会(綿あめ・風船販売)
男! 飲み会(こどもゲームコーナー)
峰友会(こどもゲームコーナー)
NPO法人なかじょう(焼物販売)
奈良井若連(射的)(ポップコーン販売)
おこしま笑会(郷土食販売)(木工教室)
西山淡竹会(販売 活動紹介)
ジビエ商品開発プロジェクト(試食・わな紹介ほか)

和太鼓演奏

中条小学校 4年生
信州おがわ太鼓 美桜里
源流美麻太鼓
犀流太鼓(信州新町)
中条虫倉太鼓
中条伝承文化保存会(神楽と獅子舞)
中条芸術文化協会(日本舞踊)
伊折民芸保存会(伊折甚句)
合同 西山小唄保存会(西山小唄)
中条中学校 西山小唄グループ(お囃子)
中条芸術文化協会(カラオケ)
大ジャンケン大会

総合司会
小林 知美

信州おがわ太鼓
源流美麻太鼓
中条虫倉太鼓
犀流太鼓

信州百名山 虫倉山 **トレッキング**
期限10月13日 予約・募集人員:40名
10/21日
お問い合わせ・お申込み
中条公民館 026-267-2145

ぐる〜り 360度の展望が広がる

主催 信州むしくらまつり実行隊 TEL 026-267-1020

●後援: SBC信越放送 長野市 長野市商工会中条支部 ●特別協賛: 栗田病院 ACTIO アラビヤ株式会社 介護老人保健施設 グループホーム すめらみ (南)カサイ薬局 Sanikleen 株式会社サンクレン中条 ●協賛: 精研ばね工業株式会社 やきもち家

第12回信州むしくらまつり(2018.11.3)ポスター

以上の出来栄えの「笹クレープ」を作っていたとき本当に感謝しかありません。ありがとうございました。次年度は学生も製造に協力し、もっと多くの方に「笹クレープ」の販売ができればいいなと強く思いました。私は「むしくらまつり」を通して大学の中だけでは味わえない自分が考案したモノが商品化して世間に売り出される貴重な経験をさせていただきました。

「落ち葉アート」と「笹舟づくり」の企画・運営

総合経営学科 清水ゼミ4年 多田 春菜

総合経営学科 清水ゼミ4年 中村 大地

今回、清水ゼミ「88プロジェクト」は成ゼミ、小林ゼミの協力のもと松本大学ブースの隣に“自然の遊び”コーナーを設置し、枯葉を利用した「落ち葉アート」、笹でつくる「笹舟づくり」体験の2つを行いました。

「落ち葉アート」と「笹舟づくり」は、10月21日に道の駅「中条」で実施した「スタンプラリー」で実際に子どもたちに好評だった遊びであり、子どもたちが遊べるスペースが少ない「むしくらまつり」でも、ぜひやってほしいとの声をいただき、今回の実施にいたりしました。

当日は子ども連れの家族を中心に声かけで集客を狙い、時間がある方は「落ち葉アート」を、ほかのお店も回りたい方は「笹舟づくり」をしようなど、参加者にあった遊びの提供を意識し、行いました。テントの前には道の駅の方がコンテナに水を張ってくれたため、そこに作った笹舟を浮かべることができました。参加者は自分が作った笹舟が浮いているのを見て楽しんでくれました。またその光景を見て一緒に笹舟を眺める方もいたり、コンテナに水が張ってあるとなにをしているか興味をもってくれる人もいたりしました。子どもたちが遊んでいたりと、誰かが作業をしていたりすると興味をもってくれる人が多くおり、地域をつなぐ可能性が見えたように思えました。

「落ち葉アート」では参加者が独自の作品を作っていて、作る方も見る方も双方楽しんでいました。印象的だったのは紙の上に絵ではなく立体的な作品を作っている子どもがいたことや年配の方がお孫さんへの誕生日プレゼントとして作品を作っていたことがあります。このように幅広い年代が工夫を凝らして参加していて嬉しく思いました。また、作品を作っている間にいろいろな話をすることができ、地元の方が思う中条への問題点や、今

後どう中条を活性化してほしいか話を聞くことができました。また、松本大学としての活動「88プロジェクト」についても話をさせていただく機会となり、地元の方とよりよい交流ができました。

課題としては、限られたスペースの中でどう楽しんでもらうか、さらに多くの方に参加してもらうためにPR方法を考えるなどがあがりました。今年初めての試みでしたが、多くのことを学ぶことができました。さらに来年、よりよい活動にするため、課題としっかり向き合い解決に向けて活動していきます。

また、今回多くの準備を道の駅「中条」の皆様にしていただきました。落ち葉を集め、乾燥していただいたり、笹を集めておいていただいたり、当日コンテナを用意してもらいました。当日参加者に楽しんでいただけたのは、準備をしっかり行えたからだと感じます。大変多くの準備をしていただいた道の駅「中条」の皆様、本当にありがとうございました。



内田敦也さん扮する「ナカジョニー」と
「〇×クイズ」考案者の塚原京一さん



「笹クレープ」の考案者の鎌田栞さん



「落ち葉アート」の様子



「笹おやき」「にらせんべい」販売の様子



虫倉山を望む88プロジェクトファームで
西山大豆収穫後に豆ポーズ

(6)「むしくらまつり」の活動に対する意見交換 と今後の展開

2018年12月10日(月)、松本大学において「88プロジェクト」4年間の活動への意見交換と今後の方向性についてミーティングを行った。長野市道の駅「中条」指定管理者であるアクティオ株式

会社植山貴司東日本営業部次長、下内光雄道の駅「中条」施設長、道の駅「中条」売店の小林彩子リーダーの3名にご出席いただき、増尾均総合経営学部長、室谷心総合経営学科長、成者政総合経営学科教授、清水聡子総合経営学科教授、清水ゼミ生・成ゼミ生22名、合計29名が参加した。

清水ゼミ3年生の塚原京一さんが原稿をまとめた。

総合経営学科 清水ゼミ3年 塚原 京一

2018年10月21日に行われた「スタンプラリー」、11月3日に行われた「むしくらまつり」を含め、4年目となる「88プロジェクト」の総括が行われました。増尾均総合経営学部長の開会宣言、アクティオ株式会社植山貴司次長、下内光雄道の駅「中条」施設長、道の駅「中条」売店の小林彩子リーダーからご挨拶を頂戴し、清水ゼミ4年生は卒業論文の経過を報告しました。

- ・松崎蓮さん、平林侑恭さん：「道の駅の現状と展望」
- ・中村大地さん：「道の駅中条における6次産業化の現状と課題」
- ・多田春菜さん：「老舗から学ぶ事業継承」
- ・金子沙也加さん：「長野市中条の地域活性化」

次に藤森龍平さんが「むしくらまつり」の反省や今後の課題について報告し、これまでの振り返りと今後の提案について、道の駅「中条」の皆さんと清水ゼミ生・成ゼミ生でミーティングを行いました。

今年の「むしくらまつり」では、内田敦也さんが考案し、生身で演じたご当地キャラクター「ナカジョニー」による「〇×クイズ」、鎌田栞さんが考案した「笹クレープ」100個限定販売、参加型イベントとして松本大学ブースにて「落ち葉アート」と「笹舟づくり」の企画・運営のほか、「笹おやき」700個、「にらせんべい」321枚を販売しました。学生のアイデアが数多く形となりました。

「ナカジョニー」はキャラクターを考案しただけではなく、AR(拡張現実)にも挑戦し、事前に動画撮影も行いました。「キャラクターを利用することにより親しみやすさが湧き、記憶に残る」、「存在感があるので情報発信が容易になる」というメリットを活かすことができ、下内施設長や植山次長からも高い評価をいただくことができました。私たちの提案を受け入れてくださり、準備をしてくださった道の駅「中条」の皆様のお陰です。改めて感謝致します。

今年度の「むしくらまつり」の反省として事前情報の伝達不足がありました。成ゼミ、小林ゼミ、清水ゼミと異なる3つのゼミが当日集まって活動をした結果、役割分担や時間配分などに課題が見つかりました。次回は今回の反省を踏まえ、事前に3ゼミ合同でガイダンスを開くなど対策を講じ、スムーズに活動ができるよう考えていきたいと思えます。

『信濃毎日新聞』（2018年10月31日）の1面にも掲載された「ナカジョニー」を、内田敦也さんは迫真の演技で続投します。「むしくらまつり」での「〇×クイズ」や「スタンプラリー」での子どもたちへの声掛けはもちろん、「ナカジョニー」の新たな動画作成や新企画、商品紹介のPV制作など「ナカジョニー」のポテンシャルをさらに高め、アイデアを出し続けたいと思えます。

下内施設長より「道の駅中条信州のりんごケーキ」をお土産として頂戴しました。こちらは発売されたばかりの新商品で、中条で収穫されたりんごをシナモンとアーモンドで風味を利かせた香ばしいケーキで、とても美味しかったです。

ミーティング後、「ナカジョニー」と「道の駅中条信州のりんごケーキ」の動画撮影をしました。内容は「ナカジョニー」がりんごケーキを実際に試食し、感想を述べるといったものです。下内施設長の「ナカジョニーをもっと大きく」という要望に応えるべく、新たな一歩を踏み出しました。

今回の総括での反省や提案を土台として、さらに機動的に地域活性化に繋げていきたいと思えます。「88プロジェクト」ならびに「ナカジョニー」の今後の活躍にご期待ください。



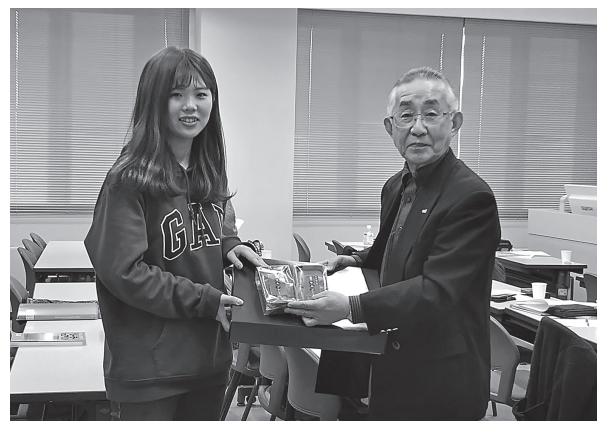
増尾均総合経営学部長より開会宣言



道の駅「中条」の指定管理者、アクティオ株式会社植山貴司東日本営業部次長よりご挨拶



清水ゼミ3年生、藤森龍平さんがむしくらまつりの反省と今後の課題を報告



下内光雄道の駅「中条」施設長より司会を担当した金子沙也加さんへ「道の駅中条信州のりんごケーキ」



発売されたばかりの
「道の駅中条信州のりんごケーキ」

(7)平成30年度「道の駅と大学連携成果発表交流会」に参加

2019年2月26日(火)、さいたま新都心合同庁舎1号館にて、平成30年度「道の駅と大学連携成果発表交流会」が開催された。総合経営学部総合経営学科清水ゼミ3年生の赤羽樹さん、内田敦也さん、鎌田栞さん、塚原京一さん、藤森龍平さん、下内光雄道の駅「中条」施設長、増尾均総合経営学部長、室谷心総合経営学科長、清水聡子総合経営学科教授の計9名で参加した。

松本大学×長野市道の駅「中条(なかじょう)」とのコラボレーション企画、「88(やまんば)プロジェクト」は子育ての神である山姥伝説を学び、山姥伝説ゆかりの地を巡り、道の駅「中条」を拠点とした地域活性化に取り組むプロジェクトである。鎌田栞さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 清水ゼミ3年 鎌田 栞
「道の駅と大学連携成果発表交流会」が開催され、8チームが成果発表を行いました。

1. 松本大学×道の駅「中条」
2. 城西国際大学×道の駅「鴨川オーシャンパーク」
3. 茨城大学×道の駅「常陸大宮」
4. いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム×道の駅「ひたちおおた」
5. 立教大学×道の駅「いちごの里よしみ」
6. 城西大学×道の駅「おがわまち」
7. 跡見学園女子大学×道の駅「もてぎ」
8. 淑徳大学×道の駅「果樹公園あしがくぼ」

松本大学はトップバッターで、『松本大学×道の駅「中条(なかじょう)」～2018 新たな試み～』として、今年度の新たな提案として「ナカジョニー」

と「笹クレープ」、先輩から引き継いだ「スタンプラリー」(2018.10.21)の企画・運営と「むしくらまつり」(2018.11.3)の参画について成果発表を行いました。

内田敦也さんが提案し、生身で演じたイベントキャラクター「ナカジョニー」はPR活動としてAR(拡張現実)技術を用いた動画を制作し、「スタンプラリー」で初登場し、「むしくらまつり」で「O×クイズ」を実施しました。

私が提案した「笹クレープ」は中条地域の特産物である西山大豆を使った商品です。企画、商品開発、ポスター制作、「むしくらまつり」において販売まで行うことができました。88プロジェクトファームで西山大豆の種まき(2018.6.18)、収穫(2018.11.3)も実施し、6次産業化によって、さらに可能性が広がっていけばと思っています。

また中条の魅力を子どもたちに伝えるために、「スタンプラリー」の問題を作成し、「落ち葉アート」「笹舟づくり」「草笛」「草相撲」「箱の中身あてゲーム」など“自然の遊び”を実施しました。学生が主体的に「スタンプラリー」や「むしくらまつり」などでさまざまな活動を通して得られた成果と道の駅「中条」を拠点とした地域活性化を目指すうえでの課題を含め、今後の展望についても発表しました。

会場から「ナカジョニー」に対する質問がありました。内田さんはゆるキャラ(着ぐるみ)ではなく生身で演じることでお客様と直接コミュニケーションできるので、親しみやすさと情報発信力があることを説明しました。また『信濃毎日新聞』(2018.10.31)の1面と25面に掲載された広報効果で、「むしくらまつり」では来場者からサインを求められたと話す会場からどよめきがおきました。

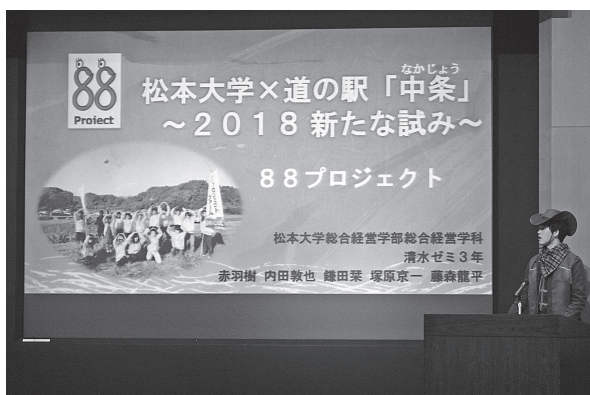
成果発表会に参加した塚原さんは、「道の駅の活性化という一つの基軸で集まった成果発表会でしたが、それぞれの大学ごとに特色が出ていて、本当に多種多様な取り組みや提案がありました。参考にできそうな部分を参考にしつつ今後の活動に活かしていきたいです。」と考えをまとめてくれました。

私は今回、責任者として発表会を無事に乗り越えることができました。どの大学も個性溢れる発表形式、パフォーマンスの演出があり、内容の濃い刺激的な1日でした。ただ地域活性化といっても画一化することなくその地域の特色・名産品や気候を活かした道の駅ならではの活動ばかりでし

た。しかしどの大学も共通しているのは道の駅の活動に「愛」があり、主体的に活動しているということが発表を通してわかりました。

私たち松本大学は既存のモノやコトから発展させるのではなく、学生が出したアイデアを道の駅「中条」の皆様のお力添えで実現して活動させていただいています。私たちにそんな素晴らしい機会を与えてくださる下内光雄道の駅「中条」施設長をはじめ、道の駅「中条」の皆様への感謝と地域活性化活動の発展を担っている重大さを再認識しました。

私たちがこの活動を更により良くしていくためには「想い」と「学び」をしっかり継承することが義務だと思っています。そのため、後輩へ反省点を含め情報共有をきちんと行い、引き継ぎをすることでより良い活動を行っていく上での土台とし、そこから質の高いアイデアを派生させて欲しいと考えています。そして「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに地域活動を推進します。更に地域に求められる「松本大学×道の駅中条」の取り組みになるよう、今後とも応援をお願い致します。



「ナカジョニー」を考案・実演した内田敦也さん



発表する内田さん、鎌田さん、赤羽さん、塚原さん、藤森さん



発表者5名とポスター



平成30年度「道の駅と大学連携成果発表交流会」
参加者の全体写真

(8) むすびにかえて

「道の駅」は1993(平成5)年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っている。2019(令和1)年6月19日までに全国1,160駅が登録されている。長野県は51駅登録されており、北海道、岐阜県に次いで全国第3位の「道の駅」登録数である。1995(平成7)年に登録された道の駅「中条」は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する。

松本大学と道の駅「中条」及び長野国道事務所は長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始し、長野市中条(旧中条村)地域の活性化に向けて、山姥伝説を地域の独自性や魅力を生み出す源泉として捉え、「88(やまんば)プロジェクト」を立ち上げた。

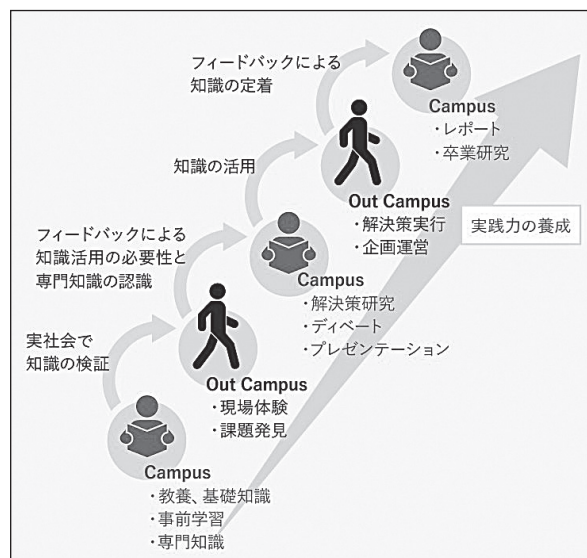
2018年度は「88プロジェクト」4年目の活動として、88(やまんば)プロジェクトファームで西山大豆の種まきから収穫、商品化という6次産業化の推進、学生が考案した道の駅「中条」のイメージキャラクター「ナカジョニー」によるAR(拡張現実)動画の制作、「スタンプラリー」(2018.10.21)

の企画・運営、「むしくらまつり」(2018.11.3)への参画・運営などを実施した。

長野市中条地域最大のイベント「むしくらまつり」では、①学生が考案した「笹クレープ」100個限定販売、道の駅「中条」の人気商品「笹おやき」700個販売、「にらせんべい」321枚販売、②「ナカジョニー」を中心にむしくらまつりへのイベント参加、③ブースで松本大学のPR、“自然の遊び”として「落ち葉アート」や「笹舟づくり」など、イベントを企画し実施するなど、学生の溢れるアイデアが形になった。

平成30年度「道の駅と大学連携成果発表交流会」(2019.2.26)には8チームの大学生が参加し、松本大学は「88プロジェクト」の成果をトップバッターで発表した。松本大学の学生として何ができるか、学生はゼロベースで考え、企画・立案し、道の駅「中条」の皆様と実施し、プレゼンテーションを行うことができた。計画通りにイベントを進行する難しさや、事前準備の重要性を試行錯誤しながら体験する。さらにプロモーションやプレゼンテーションについても現場で学び、学生は成長している。

松本大学総合経営学部では地域社会での実践的な学びを重視し、「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の融合を目指した教育活動を推進している。地(知)の拠点として、さらに地域に求められる“松本大学×道の駅「中条」”の取り組みにしていきたい。



資料：松本大学におけるアウトキャンパス・スタディの位置づけ

出所：松本大学HP

(<https://www.matsumoto-u.ac.jp/research/outcampus/>)

最後に、アイデアを出し続け、力を注いだ学生の皆さんと、学生の思いに寄り添い、一緒に向き合ってくださった道の駅「中条」の皆様、中条地域の皆様、そして学習の場を提供してくださった国土交通省の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。道の駅「中条」へ「さあさ、よっとくらえ!」。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

道の駅「中条」と松本大学との連携（4年目）

道の駅「中条」と松本大学の学生が連携し、88（やまんば）プロジェクトファームでの6次産業化の推進、お祭りへの参加など、長野市中条地域の活性化に向けた取り組みを実施します。2018年度の目玉は学生が考案した道の駅「中条」のイメージキャラクター「ナカジョニー」です。

①「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条の「スタンプラリー」と「ナカジョニー」

アルプスを望み、虫倉山に抱かれた自然豊かな「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条を舞台に、昨年、好評を博した「スタンプラリー」(2018/10/21)を実施しました。学生が考案したイメージキャラクター「ナカジョニー」も加わり、中条のさらなるイメージアップを狙いました。

② 長野市中条地域一大イベント「むしくらまつり」の連携・協力と「笹クレープ」の商品開発・販売

地域住民が作りあげる「むしくらまつり」(2018/11/3)に参加し、特産物の西山大豆を使った6次産業化の推進や地域の情報を発信していきます。2018年度は「笹クレープ」の商品開発・販売と「ナカジョニー」によるAR（拡張現実）動画を制作しました。



【松本大学】

松本大学総合経営学部では地域社会での実践的な学びを重視し、「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の融合を目指した教育活動を推進。総合経営学科清水ゼミの学生が中心となり「88（やまんば）プロジェクト」を提案し、2015年度より約20名で活動開始。2018年度は総合経営学科学生27名と増尾学部長、室谷学科長、清水先生、成先生、小林先生、矢崎先生、計33名が参画。



中条シブ 山姥（やまんば）



西山大豆 豆乳ドーナツ



信州百名山「虫倉山」



【道の駅中条 全景】

道の駅「中条」と松本大学との連携

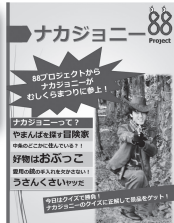


平成30年度 取組み内容①:「子育ての神:山姥(やまんば)伝説の里」中条の「スタンプラリー」と「ナカジョニー」

企画→実施



- 松本大学でキックオフ・ミーティング(5/21)を実施。先輩が考案した「スタンプラリー」を引き継ぎ、今年度新たに中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」と「笹クレープ」の提案を行いました。



学生が中条地域について現地調査(6/18)を行い、中条の魅力ある資源をもとに、「自然とのふれあい」「中条の知識」「親子間、友人間での話題づくり」の3つの目的を意識し、昨年に引き続き、「スタンプラリー」を企画・実施(10/21)しました。

- 中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」が「スタンプラリー」で初登場しました。



- 「スタンプラリー」の後は「落ち葉アート」「笹笛」「笹相撲」
- 「ナカジョニー」も参加し、「箱の中身あてゲーム」などの自然の遊びを体験してもらいました。子どもたちと交流しました。



道の駅「中条」と松本大学との連携



平成30年度 取組み内容②:長野市中条地域一大イベント「むしくらまつり」の連携・協力と「笹クレープ」の商品開発・販売

企画→実施

- 「88プロジェクトファーム」での6次産業化の推進。西山大豆の種まき・収穫を体験。

種まき(6/18)

収穫(11/3)



- 「笹クレープ」の原案・商品開発・ポスター制作。



中条地域最大のお祭り「むしくらまつり」(2018/11/3)で地域を盛り上げる企画を提案し、実施しました。

- 学生が考案した「笹クレープ」を100個限定100円で販売し、あっという間に完売。さらに「笹おやき」700個完売、「にらせんべい」を321枚販売しました。
- 「ナカジョニー」によるAR(拡張現実)動画を制作。むしくらまつりにも登場し、「O×クイズ」を実施。「落ち葉アート」「笹笛づくり」などの「自然の遊び体験」で、多くのお子さんやご家族に楽しんでいただきました。

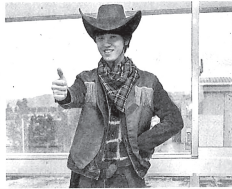


資料：『信濃毎日新聞』（2018.10.31）1面・25面

信 濃 毎 日 新 聞

統合 2018年（平成30年）10月31日 水曜日 日刊 9版★

2018（平成30）年
10月31日
水曜日



ご当地キャラ 生身で演じます

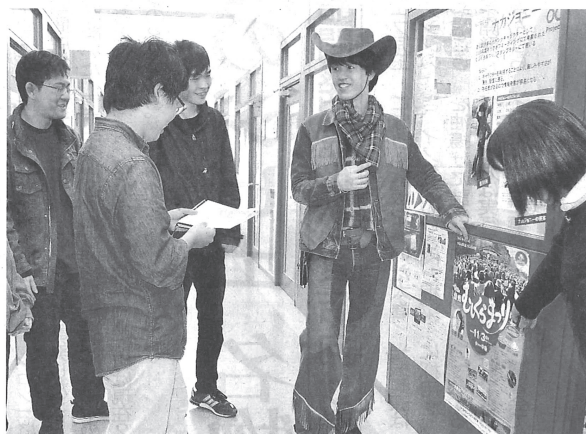
山姥を追う冒険家、その名も「ナカジョニー」。松本大生が長野市中条を盛り上げるキャラクターを考案した。地域面中条から



1873年（明治6年）創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南興町 657番地
電話（026）
受付236-3000編集236-3111
販売236-3310広告236-3333
松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話（0263）
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社2019年

25 地 域

「ナカジョニー」 松本大生 変身！



ナカジョニーに扮した内田さん（右から2人目）と研究室の学生ら

長野・中条道の駅のキャラ考案

山姥を追う冒険家「ナカジョニー」。長野市中条地区の活性化に取り組み松本大（松本市）の学生が、同地区の「道の駅中条」のイベントキャラクターを考案した。中条に伝わる山姥伝説にちなんでキャラクターを考えた総合経営学部3年の内田敦也さん（21）が、西部劇のガンマンのような衣装を着て自ら扮し、11月3日に同道の駅で開く「信州むしくらまつり」で登場する。ナカジョニーの出演動画も配信中で、新たな切り口から中条をPRする。

同大は2015年に同道の駅の指定管理者と連携協定を結び、同学部の清水聡子教授の研究室を中心に「88（やまんば）プロジェクト」をスタートさせた。これまでに中条特産の西山大豆を使ったスープや山姥伝説にちなんだキーホルダーなどを開発し、むしくらまつりで販売してきた。

3日の「まつり」に登場

ナカジョニーは今年のまつりに向けた5月の会議で内田さんが提案。「ご当地キャラは親しみやすく情報発信力がある」と中条にかけた名前を考え、ゲームの登場人物にも着想を得て西部劇風のキャラクターをイメージした。

提案を受けた道の駅中条の下内光雄施設長（66）は「最初に分かりにくかったが、次第にこれは面白いと思うようになった。学生の発想は違う」。客とコミュニケーションを取りやすくするため着ぐるみではなく内田さんが生身で演じることとし、道の駅側が衣装を準備した。

動画は同学部3年の塚原京一さん（21）が制作。AR（拡張現実）を使い、まつりのポスターに載せたナカジョニーの写真にスマートフォンをかざすとナカジョニーが商品などを紹介する。まつり当日はナカジョニーが会場に来場者にクイズを出すなど盛り上げる。

まつりは中条地区の住民自治協議会などの実行隊が主催。3日前9時〜午後2時45分。

2019年2月26日ポスター



道の駅「中条」

×



松本大学



私たちは...

長野市中条地域最大のイベント「むしくらまつり」への参加をととして地域活性化に取り組んでいます！

企画



88プロジェクト商品開発



笹クレープ試作



88プロジェクトファームでの収穫

ナカジョニー参上!! AR 動画制作



ナカジョニー88 Project



笹クレープ販売



限定100個

スタンプラリーを実施



実施



落ち葉アートなど自然の遊びを実施





国土交通省 関東地方整備局

国土交通省では、全国各地で、「道の駅」と大学との連携を実施しています。この取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人生育や地方創生にも寄与が期待されているところです。